

北海道の観光は、格安航空会社（LCC）の就航やアベノミクスによる円安の進行、国内景気好転の兆しなどにより、東日本大震災後に大きく減少した入込客数が急回復し、オホーツク各地の夏のイベントも今年は多くの観光客で賑わっているようです。

さて、ケガニは北海道の代表的な味覚として、重要な観光資源となっています。今年のオホーツク総合振興局管内のけがにかご漁業は先週で終漁となりましたが、漁獲金額は約 9 億 5 千万円で昨年より 9%ほど増加しました。（同総合振興局調べ）。

北海道ではこの重要なケガニ資源を持続的に利用するため、雌ガニ・小型雄ガニの採捕禁止やけがにかご漁業の許可隻数、操業期間などの制限を設けている他、「許容漁獲量」を設定して資源管理に取り組んでいます。ケガニは、季節的な深淺移動は行うものの漁獲対象サイズ（甲長 8cm 以上）の雄ガニは大きな水平移動はしません。「許容漁獲量」は、このようなケガニの生態を踏まえて、本道の主要な 6 つの海域（噴火湾、胆振太平洋、日高、釧路西部・十勝、釧路東部、オホーツク）毎に、水産試験場が毎年の資源調査や漁獲統計調査により資源評価（資源の水準や動向の判断）を行ない、その結果から算定した生物学的許容漁獲量（ABC：Allowable（または Acceptable）Biological Catch）に基づいて設定されています。

宗谷総合振興局管内を含むオホーツク海域のケガニ漁獲量は、北海道全体の約 50%を占めていますが、昨年の資源評価では他の 5 海域の資源水準が「中～高水準」であるのに対して、オホーツク海域の資源水準は「低水準」で、資源動向は「横ばい」となっています（詳細は道水産林務部の次の URL をご覧下さい。<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ggk/manualHP2010.htm>）。

網走水試が 6 月下旬～7 月上旬に、各漁協・市町のご協力を得て実施した「ケガニ資源密度調査」は、毎年同じ条件（調査の時期や位置・点数、使用漁具など）で漁獲調査を行い、その結果から算出される「資源量指数」を経年的に比較して、資源の水準や動向を相対的に把握するものです。今年の調査結果では、来年漁獲対象となる甲長 7cm 以上の雄ケガニの「資源量指数」は昨年に比べて約 1.3 倍に増加していましたが、再来年以降に漁獲対象に加入が見込まれる甲長 7cm 未満の雄ケガニは昨年の約 1/3 に減少していましたが（詳細は網走水試 HP の下記 URL をご覧下さい。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/abashiri/section/zoushoku/mf7eo10000009w9.html>）。

今後、この調査結果と稚内水試が実施した宗谷管内の調査結果とを併せて、オホーツク海域全体の資源評価を行い、ABC を算定するとともに、それらを基に来年の「許容漁獲量」が決定されます。

網走水試では、オホーツク海域でのケガニ資源の維持・増大のため、今後とも精度の高い資源評価や ABC 算定に努めたいと考えておりますので、資源調査や漁獲統計調査等へのご協力をよろしくお願いいたします。

（ 網走水試 野俣 ）